



最初にお読みください



CentreCOM MC2600/MC2700 シリーズ リリースノート

この度は、CentreCOM MC2600/MC2700 シリーズ製品をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.2.0

2 本バージョンで仕様変更された機能 (MC2700のみ)

ファームウェアバージョン 1.1.0 から 1.2.0 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

2.1 対応ラインカードの追加

CentreCOM MC2700-10/80 用のラインカードとして、ファーストイーサネット・メディアコンバーター・ラインカード「AT-MC151B」が対応しました。詳しくは、最新の「CentreCOM MC2700-10/80 取扱説明書」、「AT-MC230 取扱説明書」をご覧ください。

なお、AT-MC151B の対向機器として、CentreCOM MC1501A のほかに、AT-1311 をお使いいただくことができます。AT-1311 をお使いいただく場合は、次の点にご注意ください。

- SHOW MC MODULE コマンドのリンクパートナーの機種名（一覧表示における LP、個別モジュールの詳細情報表示における Link Partner、個別モジュールのリンクパートナー情報表示における Description）は「unknown」と表示されます。
- SHOW MC MODULE コマンドのリンクパートナーのモデル番号（個別モジュールのリンクパートナー情報表示における TS-1000 Model Number）には、本来は製品名およびハードウェアリビジョンが表示されますが、「AT-1311 Rev.x（xは接続された AT-1311 のファームウェアリビジョン）」が表示されます。
- ENABLE/DISABLE LOOPBACKMODE MODULE コマンドに LP パラメーターを指定することによるループバックモードの切り替えには対応していません。
- AT-1311 のエンハンスト・ミッシングリンク機能を使用する場合は、AT-1311 のミッシングリンク機能を無効（Disabled）に、AT-MC151B のミッシングリンク機能を有効（Enabled）に設定してください。

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.1.0 から 1.2.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 SET ETH コマンドにおいて、マネージメントポートのポート名設定を消去する際、NAME パラメーターにダブルクォート 2 つ ("") または空白を指定しても設定を消去することができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.2 オプション (別売) の SFP モジュール「AT-SPLX10」「AT-SPZX80」を装着して SHOW MC PORT コマンドを実行すると、誤った情報が表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.3 SHOW MC PORT コマンドにて、正しくは PAUSE と表示されるべきところが Symmetric PAUSE と表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.4 SFP の装着されたラインカードモジュールを抜き、SFP の装着されていないラインカードモジュールを装着して、SHOW MC PORT コマンドに SFP オプションを指定して実行した際、以前に装着されていた SFP の情報が表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.5 SHOW MC PORT コマンドにて、本来ならばリモートポートの PHY Status が Failed になる場合に、ローカルポートの PHY Status が Failed と表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 3.6 SHOW MC PORT コマンドに SFP オプションを指定した際に表示される SFP 情報のうち、Fiber Channel Transmitter Type の値が正しく表示されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.7 ARP パケットにより本体宛での通信に負荷をかけるとバッファが枯渇することがありましたが、これを修正しました。
- 3.8 DHCP サーバーから IP アドレスを取得したあと、IP アドレスを固定設定に切り替えた場合、サブネットマスクやゲートウェイアドレスが 0.0.0.0 と表示されるにもかかわらず通信が行えてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 3.9 DHCP サーバーから IP アドレスを取得したあと、IP アドレスを固定設定に切り替えた場合、ゲートウェイアドレスを指定していないと、既に DHCP サーバーから取得されているゲートウェイアドレスが一時的に使用されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 3.10 DELETE IP コマンドを実行して IP インターフェースを削除しても、マネージメントポート宛の通信ができてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 3.11 電源ユニットに異常が発生し FAULT LED が橙色に点灯している状態でファームウェアの更新を行うと、FAULT LED の LED 表示が不正になることがありましたが、これを修正しました。

- 3.12 SNMP マネージャーにて、SNMPv2 の GetBulk リクエストを実行する際、non-repeaters パラメーターを 0 以外の値に設定すると、本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.13 SNMP マネージャーにて、マネージメントポートの Interfaces Group MIB の ifHCInOctets および ifHCOutOctets の値が常に 0 となっていましたでしたが、これを修正しました。
- 3.14 SNMP マネージャーにて、プライベート MIB の mc2500PortSFPVendorInfoTable および mc2500PortSFPInfoTable の値を取得すると、ラインカードモジュールを装着していないポートの SFP 情報が表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.15 SHOW INTERFACE コマンドに COUNTER オプションを指定した際に表示される MIB II の ifInOctets の値が ifOutOctets の値と同じになっていましたが、これを修正しました。
- 3.16 コマンド入力途中で ? キーによるヘルプを表示したあと、Backspace キーや Delete キーでコマンドを編集し実行すると、エラーが表示されること、またはコマンドが正しく実行されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.17 モジュールが装着されていない、またはリンクが確立されていないポートのモジュール番号に対して ENABLE LOOPBACK MODULE コマンドを実行した場合、「Operation reserved.」または「Operation successful.」と表示されるにもかかわらず予約設定が反映されていませんでしたが、これを修正しました。
- 3.18 モジュールの装着されていないモジュール番号に対して ENABLE LOOPBACK MODULE コマンドを実行すると、SNMP マネージャーでの MIB II の ifAdminStatus の値が testing(3) になることがありましたが、これを修正しました。
- 3.19 ENABLE LOOPBACK MODULE コマンドによってループバック機能を有効に設定したポートに対して、SNMP マネージャーから MIB II の ifAdminStatus の値に up(1) または down(2) を設定しても反映されないことがありましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.2.0 には、以下の制限事項があります。

4.1 SNMP によるログ機能設定の消去について

 **「コマンドリファレンス」 / 「ログ」**

SNMP マネージャーにて、プライベート MIB の mc2500LogPurge を実行しても、Syslog サーバーの接続 UDP ポート番号はデフォルト値 (514) に戻りません。
Syslog サーバーの接続 UDP ポート番号も含めて本製品のログ機能に関する設定を削除する場合は、コマンドラインインターフェースより PURGE LOG コマンドを実行してください。

4.2 SNMP による状態取得時のタイムアウトについて

SNMP マネージャーにて、SNMPv2 の GetBulk リクエストを実行する際、max-repetitions パラメーターを 5 以上の値に設定すると、本体からの応答がタイムアウトすることがあります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。

4.3 SNMP マネージャーにおけるプライベートトラップの表示について

SNMP マネージャーにて、プライベートトラップ受信時にトラップの種類が正しく表示されません。

プライベートトラップの送出的際、Trap PDU の enterprises ノード以下に誤った値が設定されているため、SNMP マネージャー側では種類の認識が正しく行われず、トラップの種類が不明と表示されるなど、正しい表示が行われなくなります。

プライベート MIB に定義されるトラップの属性は正しく表示されますので、トラップの属性から内容を類推することができます。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書とコマンドリファレンスの補足事項です。

5.1 インターフェース

 「コマンドリファレンス」 / 「インターフェース」

ENABLE/DISABLE ETH コマンドによりマネージメントポートの有効/無効を変更した場合は、トラップは発行されません。

5.2 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「SNMP」

SNMP マネージャーにてラインカード対向機器の情報を取得する場合、その都度、対向機器に対して情報取得のための管理フレームが送信されます。

5.3 接続テスト

 「コマンドリファレンス」 / 「接続テスト」

ENABLE LOOPBACK コマンドを入力する際、TAB キーまたはスペースキーによる入力候補の補完機能を使用すると、LP が候補に表示されますが、実際は LP を選択するとエラーが表示されます。

ENABLE LOOPBACK に続いて MODULE、LP の順にパラメーターを指定することで、指定したモジュールの対向機器のループバック機能が正しく有効 (Enabled) に設定されます。